

平成29年度行政評価シート【個表】

平成 29 年 6 月 22 日

評価対象事業		評価者	文化人権推進課担当課長 高橋 謙司	
経企-26	実施事業	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務	主管課	文化人権推進課
	まち・ひと・しごと		関連課	
総合計画上の位置付け	分野	文化	施策の方針	文化活動の支援・推進

1 事業の目的

対象	市民等
意図	鎭木清方の作品等を展示公開及び維持・管理し、鎭木美術品等の調査及び研究を行うため。
効果	鎭木清方の業績を後世に伝える。市民の教育、学術及び文化の発展に資する。

2 平成28年度に実施した事業の概要

- ・指定管理者制度により、鎭木清方記念美術館の効率的な管理運営を行った。
- ・指定管理者との役割分担に応じた施設の維持管理を行った。

3 事業費等基礎データ

データ区分	27年度決算	28年度決算	データ区分	29年度当初予算	備 考
人口等のデータ	人 口	177,243人	人 口	176,466人	・各年3月31日 (住民基本台帳)
	世 帯 数	80,676世帯	世 帯 数	81,150世帯	
	事業の対象者数	29,737人	事業の対象者数		
運営資源状況	決算値(千円)	46,574	当初予算(千円)	47,912	
	国県支出金		国県支出金		
	地方債		地方債		
	その他		その他		
	一般財源	46,574	一般財源	47,912	
	人員配置数	0.7	人員配置数	0.7	
事業経費運営	人件費(千円)	5,318	人件費(千円)	5,564	
	総事業費(千円)	51,892	総事業費(千円)	53,476	
	市民1人当りの経費(円)	293	市民1人当りの経費(円)	303	
	対象者1人当りの経費(円)	1,745	対象者1人当りの経費(円)		

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効 率 性	事業費に削減余地はないか	1. ある
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥 当 性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きい	2. 廃止・休止による影響は小さいがある
有 効 性	事業の成果は得られているか	2. 成果は概ね出ているが、更なる努力は必要である
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きい	3. 事業の方向性や手法は概ね適切であり、一定程度貢献している
公 平 性	受益者負担は公正・公平か	○-1. 既に受益者負担を求めているが、今後、その額や対象等を再検討する必要がある
協 働	市民等と協働して事業を展開しているか	○-1. 既に市民等と協働して事業を実施しているが、協働のあり方等の見直しが必要である
	協働実施済	協働実施済の場合のパートナー 市民団体

事業内容の方向性	☐ a: 事業内容を見直す ☒ b: 事業内容は現状通りとする ☐ c: 事業を休止又は廃止する ☐ d: 他事業と統合し、本事業は廃止する	☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ その他	見直しの内容
	⇒	⇒	事業へ統合
予算規模の方向性	☐ A: 予算規模を拡大する ☒ B: 予算規模は現状維持とする ☐ C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由	引き続き、指定管理者制度と連携しながら効率的な管理運営と施設の適切な維持管理を行っていく。

総評(評価に対する考え方、根拠等)	効率性については、委託料削減の可能性があるため、「事業費の削減余地」は「ある」とした。 鎭木清方記念美術館は、本市にゆかりのある近代日本画の巨匠、鎭木清方の作品を展示し、その功績を伝える場であり、また、日本画を描くワークショップを開催するなど体験を通して伝統を伝え、本市の文化振興に寄与している。平成28年度は、過去最大の来館者数を記録した平成27年度と比較すると来館者数が減少したものの、安定した来館者数を確保できていることから、妥当性については、「市民ニーズ」は「変わらずにある」とした。また、有効性については、「概ね成果が出ているが、更なる努力は必要である」とした。 市民等との協働事業は既に実施しているが、事業内容や協働のあり方について指定管理者と協議し、充実を図っていく。 引き続き、業務の見直しを行い、効率的なPR、広報活動に努めていく。
-------------------	---

平成28年度事業実施にあたっての課題 (前年度未解決の事項を含む)	・平成27年度に著しく増加した来館者数を平成28年度も維持するべく、企画内容やPR方法等を検討する。 ・芸術的価値の高い鐫木作品等を災害から守るための方策や今後想定される収蔵庫の容量不足等について、指定管理者と協議しながら検討する。	
課題解決のために行った平成28年度の取組	・展示企画や普及事業の周知を効率的に行うため、各種メディアへのPRを行った。 ・館外での日本画ワークショップを行い、美術館をPRした。 ・市内小中学校の夏期・春期休暇に合わせ親子鑑賞を実施し、子どもの来館を促進した。 ・ホームページの多言語化により、外国人の来館者増加に向けた取り組みを行った。 ・指定管理者と施設における課題等について定期的に協議を行った。	☐ 解決 ☒ 一部解決 ☐ 未解決
未解決の課題、新たな課題とその理由	・鐫木作品等を災害から守るための方策、今後想定される収蔵庫の容量不足を踏まえた鐫木作品等の管理方法等について、具体策が見い出せていない。 ・平成28年度は来館者数が減少したため、来館者減少の要因を分析するとともに、企画内容やPR方法について継続した検討が求められる。	

比較事項	管理運営事業費・来館者数(H28)							
団体名	鎌倉市 鎌倉市鍋木清方記念美術館	茅ヶ崎市 茅ヶ崎市美術館						
他市実績	47,988千円	78,514千円						
	23,633人	30,311人						

比較事項									
団体名									
他市実績									

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容						単位		指標の傾向		備考
当該指標を設定した理由	年次	H26	H27	H28	H29	H30		H31		
	目標値									
	実績値									
	達成率									

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	平成27年度から同規模の施設に合わせた目標値に改めた。平成28年度は目標値を下回る結果となったが、直近5年間の平均では目標程度の来館者数であった。今後も安定した来館者数の獲得が課題である。
------------------------------	---